

国際宇宙ステーション

③ 国際宇宙ステーション

1. 建設までの道のり

1982年 アメリカが計画を立てる。

1988年 エロワ・カナダ・日本も協力することになり、宇宙ステーション「フリーダム」と計画

1993年 ロシアが参加

1998年 建設開始

2006年 完成予定 ⇨ 2010年に交ろう

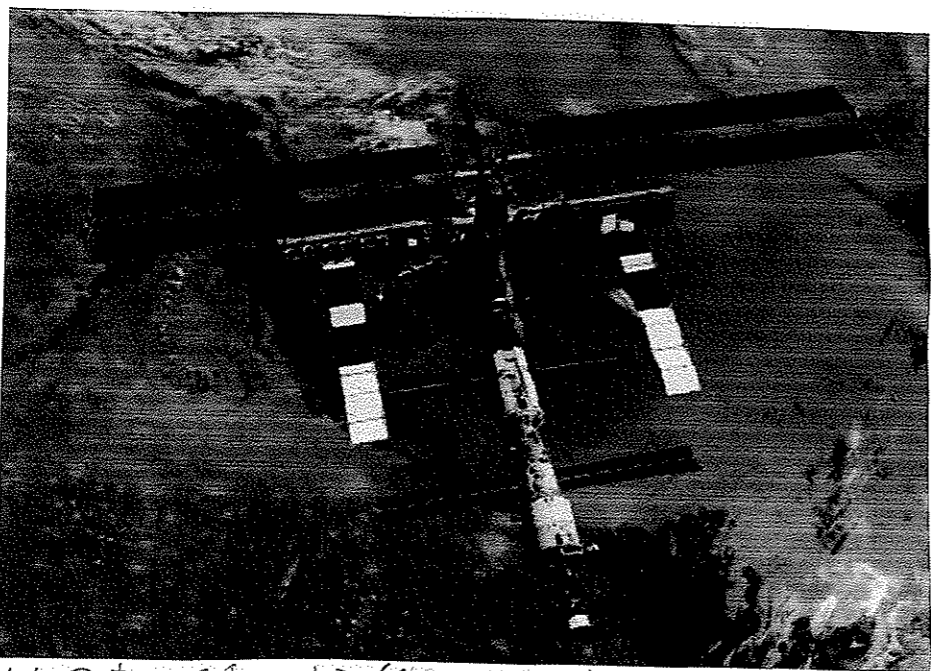
2. プロフィール

場所... 地上から

約400kmの上空。地球の周りを約90分で1周。

大きさ... 108.5 x 72.8 (m)

重さ... 450ト



3. 参加15か国の役割と開発経費

日本: 基幹を担当。

宇宙での実験のための日本が作る初めての有人しせつ。最大4人が同時に活動できる。(約3200億円)

アメリカ: 各国との調整をとりながら総合的なまとめ役を担当。構成要素は実験モジュール、居住モジュール、ロボットアームを設置するトラス、太陽電池パネル。(約3兆3200億円)

カナダ: 宇宙ステーションの組立て、そこの交かんに使われるロボットアームを担当。スペースシャトルで使用するロボットアームを作った経かんがある。(約6000億円)

ロシア: 最初に構成要素を打ち上げた。宇宙飛行士が生活するスペースや、主幹部のための宇宙船を担当。(不明)

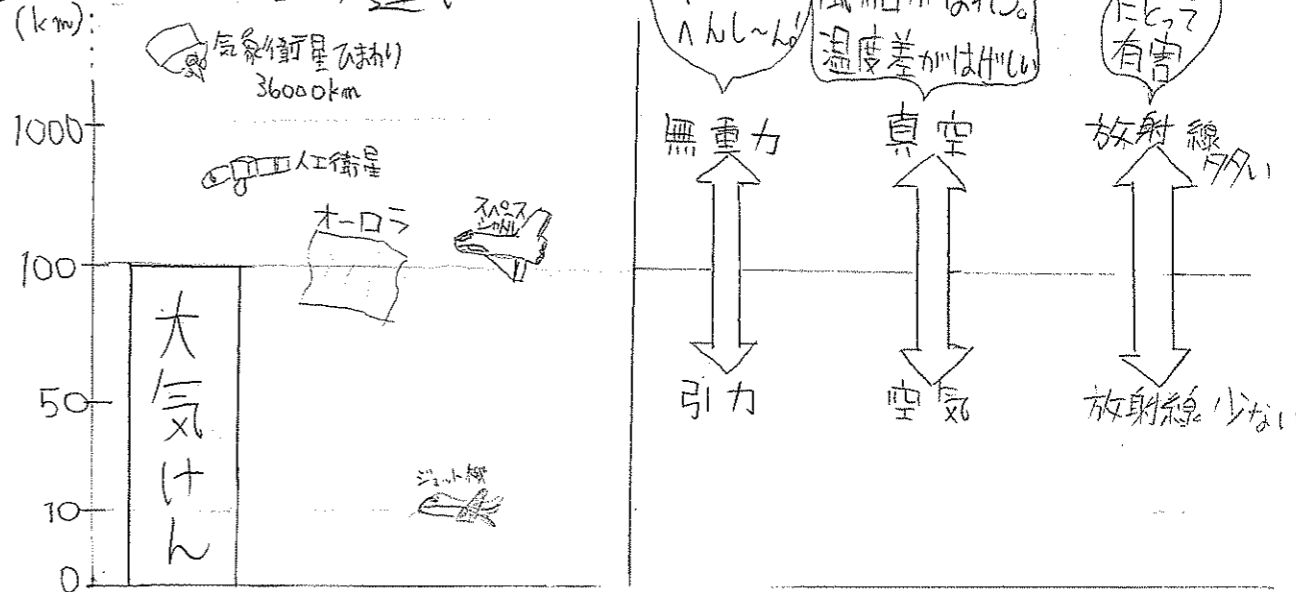
その他: 主に、実験モジュールを担当。(約6000億円)

* その他の国は、ベルギー、デンマーク、スイス、スウェーデン、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、スペイン、イギリスの11か国。

① 動機

夏休みに入、てすぐに、筑波宇宙センターの見学会に参加しました。宇宙飛行士 野口さんのスペースシャトルの打ち上げもあ、たので、とても興味深く、宇宙で働く宇宙飛行士と国際宇宙ステーションについて調べました。

② 地球と宇宙の違い



⑤ まとめ

宇宙に飛んでいくロケット・人工衛星・スペースシャトルの役割について 筑波宇宙センターに行き、みてよくわかりました。

今回 野口さんの乗ったスペースシャトル「ディスカバリー」の断熱材がはがれて、前回のコロンビア号の事故を思い出したか、無事帰ってきた本当に良かったです。

国際宇宙ステーションを建設するには、スペースシャトルの安全な飛行がないとむずかしいと思いますが、次回はじゅう分に安全の確認をして、早く夢のISSが完成することを期待しています。

これから宇宙に飛ぶ立っ古川さん、星出さん、山崎さんも今まで活やくした5人の経験をもとに、がんばってほしいと思います。

しょう来、宇宙旅行に行かれるようにならたら、ぜひ行ってみたいです。

横須賀市立 根岸小学校 6年
大竹舞奈

④ 野口宇宙飛行士の活やく

- 7/26 打上げ成功・タイル脱落
- 27 外部燃料タンクの断熱材はがれる。
- 28 ISSとドッキング 複数損傷 NASA機体は健全
- 29 26カ所傷が見つかった。再点検。
- 30 1回目の船外活動…補修訓練
- 31 きん急補修(接合材はみ出しで) 傷の90%安全
- 8/1 2回目の船外活動…姿勢制御装置の交換(シャトル初の宇宙補修)
- 2 野口宇宙飛行士「無重力に慣れた。」
- 3 3回目の船外活動…野口さんが指示を伝達して、ロビンソン宇宙飛行士が補修
- 4 小泉首相と交信
- 5 ディスカバリー ISSからはなれる。
- 6 オニツカさん(1986年のチャレンジャー号で大きなロケットカプセルの事)も安全をいのる。(野口さんの)
- 7 今みとこ「機体に問題なし。」
- 8 シャトル帰環1日延期…地上の天候不順で
- 9 無事帰環 野口さん満足の笑顔 宇宙(ISS)にもとりにたい

